

回り回つて

国立市立国立第一中学校 三年 画塚 美伶

「私たちは、消費税ゼロの社会を目指します。」

先日の参議院議員選挙の街宣車から聞こえた言葉だ。私はこの言葉を聞いて、消費税が無くなれば、より多くの物が安く買えるためとてもいい案だと思った。

しかし、私の考えは甘かった。その日は税理士が学校に来て税について話してくれる日だった。その時間で一番印象に残った言葉は「どの税よりも消費税で集まる割合が大きいんだよ。」

だつた。貰った冊子を見てみると、確かにそれは本当に全体の二十一・六パーセントを占めていた。私は、その時

「一番多い消費税が無くなつてしまつたら、社会はどうなつてしまふのだろう。」

と疑問に思った。私は家に帰つて、そのことについて調べてみた。そこには、財政難になり、年金、医療、子育て支援などの社会保障を充てる余裕がなくなつてしまふと書かれており、今の少子高齢化社会の日本から見るととても不安を感じる内容が書かれていた。消費税の減税や廃止は本当にうれしい事なのだろうか。税金は回り回つて私達のためになつてているのだと私は思った。私はまた、疑問に思ったことがあつた。それは

「なぜ、私達のための税金なのに、減税など政治家に批評があるのか。」と。それを母に尋ねると、母は、「減税して欲しいとかではなくて、本当に使い方が正しいか、なの。例えば、居眠りしている政治家の高いお給料になるとかねえー。」と言つた。一人だけの意見だが大切な話だと分かった。

今までの話をまとめると大切なことは国民と政治家に一つずつある。国民は、税のこと良く知り、メリットだけではなく、デメリットも理解する必要がある。そして政治家は国のために税金を納めている国民に対して責任感のある行動をもち日本のために、リーダーとして考える必要がある。私も国民として、もつと税金のことを知りたい。これから先この二つのことができるようになつてきたら、日本の生活は豊かになつて行くだろうと私は思う。